

トルコ・エスキシェヒル市日本庭園

—築造報告—

福原成雄

はじめに

2009年6月初旬に、日本トルコ民間交流協会石本寛治会長、智恵子ご夫妻が、日本文化紹介事業の打ち合わせのため、首都アンカラ近くのエスキシェヒル (Eskisehir) 市を訪問されました。同市のユルマズ・ブユケルシェン (en:Yılmaz Büyükerşen) 市長と面談、市長は「2010年トルコにおける日本年」の記念に、同市内公園の一角に「日本とトルコの友好の日本庭園」(仮称)を2009年秋に建設することを決められ、そのために2009年8月6日から9日間、市長、区長、市議員(弁護士)、公園責任者の4名が日本庭園調査のため訪日されました。

市長は非常に親日的な方で、市長に就任する前は、この市のアナトリア大学の学長を勤められ、大学をトルコでも有数の大学に発展させました。

学長時代(1980年代)には、日本庭園に魅せられ、日本訪問で得た知識により大学構内にトルコの人々の手によって日本庭園を築造されました。

日本トルコ民間交流協会(以下交流協会)は、1993年に設立され、以来、今日までトルコとの草の根交流が行なわれています。

交流協会は日本庭園建設のために様々な準備を行なわれ、筆者の学芸出版社刊『日本庭園を世界で作る』をお読みいただき、作庭に関する様々なご相談の連絡があり、市長にお会いしたことからトルコ・エスキシェヒル市日本庭園計画が始まりました。(図-1 図-2参照)



図-1 エスキシェヒル位置図



図-2 日本庭園計画位置図

1. エスキシェヒル市の概要

エスキシェヒル市はトルコ北西部に位置し、イスタンブールの南東350km、アンカラの西250kmに位置しています。ポルスック川が流れ、海面からの高度は790mで肥沃なフリギア谷が見下ろせ、近くの丘にはいくつか温泉があります。

また、エスキシェヒル県の県庁所在地で、2008年の調査では人口は599,796人です。

フリギア人によって紀元前1000年に作られトルコ語で古い町という意味で、考古学博物館にはフリギア古器物や彫刻が多く残されています。

海泡石の産地で、市内には海泡石博物館があり、海泡石パイプ(メシヤムパイプ)が有名です。

従来は、伝統的な製粉や煉瓦製造に頼っていましたが、1894年に、バグダード鉄道の為の工場が出来て拡張し、トルコ初の航空機産業(航空機器供給管理センター)が設立され、トルコ航空の前身にあたる組織が初めてアンカラ、エスキシェヒル間の定期運行を行いました。

近代産業を含めた中心産業都市でトラック、家電製品、鉄道車両、戦闘機のエンジン、農業機械、織物、煉瓦、セメント、化学製品などの製造、海泡石の加工、砂糖の精製などが行われています。

ユルマズ・ブユケルシェン市長の熱意により市内の河川改修、道路、路面電車、公園整備等が積極的に行われ、トルコで最も注目される都市となっています。

2. 日本庭園作庭の現地調査(2009年9月9日~11日)

1) イスタンブール市日本庭園

イスタンブール市と姉妹都市である下関市が2003年11月に姉妹都市30周年記念で作庭した庭園を見学しました。枯山水、池庭、露地で構成され、催し物の出来る茶室、四阿、木橋、周囲の築地塀等を配置した池泉回遊式庭園です。管理しているガードマンからも維持監理の話をお聞きしました。(写真-1参照)



写真-1 池庭、四阿

2) エスキシェヒル市調査(9月10日)

ホテルの窓からの眺めるエスキシェヒル市は、周囲を小高い丘に囲まれた盆地に町が作られ、緑の多さに驚かされます。(写真-2参照)



写真-2 エスキシェヒル市迎賓館周辺

宿泊施設周りの植栽は、マツを主にした針葉樹とリンゴ、アンズ、オリーブ、ブドウが多く植栽されていました。

日本庭園計画予定地は、既存の公園内に設けるのではなく、チルチルパークに接する広大な敷地の一角で私の考えていた場所と同じでした。(写真-3、4参照)



写真-3 チルチルパーク

市所有の植物圃場も見事で、石もコケがのりやすい赤っぽい砂岩でした。(写真-4、5参照)



写真-4 市圃場



写真-5 石材調査

3) 今後の日程

早急に造成図面を作成送付し、11月の終わりか、12月の中旬に1週間の予定で石組、植栽計画図面を持参して施工打合わせ、石、植物の選定を行います。

2010年2月か、3月頃に石組工事、4月から5月に植栽工事、仕上げ工事、6月に開園式を行います。

今回の調査では、ケントパーク、チュルチュルパーク、日本庭園計画地、市の圃場、周囲の山々に転がる石材等を市造園局長運転の三菱ランドクルーザーで見て回りました。

(写真-6参照)



写真-6 ケントパーク

現場で、周りの状況、周囲の景観から簡単なイメージスケッチを作成して打合せを行いました。(図-3参照)

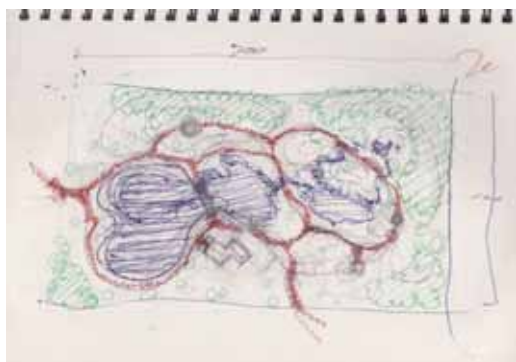


図-3 イメージスケッチ

その後、市長が作られたアナドル大学内の日本庭園を見学しました。(写真-7参照)

その晩は、市圃場の中に在るグリーンハウス(職員食堂)で賑やかな夕食会でした。市議会議員、区長夫婦、キューバ大使館職員、夫婦同伴で言葉が違ってても持てなしの心は変

わりませんでした。



写真-7 アナドル大学日本庭園

4) トルコに思う

イスタンブールまで4時間、道路工事の多い山道を時には時速150キロで飛ばしイスタンブールに到着。

イスタンブールは、奈良女子大学名誉教授近藤先生と仲間を訪れたことがあり、覚えているのは、トプカプカ宮殿、バザール、ベリーダンスで、まさか、仕事で訪れる日が来るとは思いもしませんでした。

トルコでは日本庭園文化、技術を自国の造園に取り入れたいと熱望されています。

以前、日本の造園家が力の限りを尽くしてトルコで作庭された枯山水庭園はどう見ても日本庭園と感ずる事が出来なかった。造園家は、自然を基本にした日本庭園美を表現することが求められています。

2. 設計作業

1) 設計意図

・ 2010年トルコにおける日本年を記念し日本とトルコの友好を深め世界平和の願いを込めて、日本トルコ民間交流協会とエスキシェヒル市が協力して市郊外の公園一角に面積2haの日本庭園を作ります。

・ エスキシェヒル市日本庭園は、全体構成が池泉回遊式と呼ばれる様式で、自然風景をモチーフにした築山、滝、流れ、池を日本庭園の伝統的な縮景技法で作成し、国内外の多くの人々が庭園の景色を眺め楽しむ事の出来る様にします。

- ・庭園の適所に、枯山水、露地庭を設けて、日本の歴史から生み出された庭園の様式美を鑑賞出来る様になります。
- ・2010年は、1890年に和歌山県串本沖でトルコ軍艦エルトゥール号が遭難、日本の人々が救助して120年目で、日本とトルコの有効を深める記念の年であることから、紀伊大島の風景を取入れます。(写真-8、9参照)



写真-8 トルコ記念館串本町 (1974年設立)
写真-9 紀伊大島

2) 空間構成

- ・敷地北側から西側に接する部分は、外周道路と住宅地が建ち並び車の走る音や生活音が聞こえて来ます。

そこで庭園内敷地境界部に高さ2m～約7mの築山を造成し、北西の奥まった築山に落差3mの大滝を設けて深山幽谷の景色を作ります。滝からの流れが滝壺に落ち、流れがそこから分かれて一筋は、渓谷の中を急流となりもう一筋は、ゆるやかな流れで、水性植物が咲き乱れる湿地帯に流れ下り、異なる流れの表情を作ります。

- ・中流で二筋の流が合流し穏やかな流れとなり池に流れ込み、池は小さな上池と大きな下池に別れ、間に木橋を掛けて、周囲の雄大な庭園景観を眺める事が出来ます。
- ・下池には、岬を表す半島が池に伸びて海を表現し、南西部には池に張り出して休憩舎を設けています。休憩舎は池の周囲からの眺めの主景となり、対岸の桜山、木橋を眺め楽しむ所です。
- ・建築は、南側に主となる入口門(冠木門)を建て、門に入って管理事務所、右手に小さな庭門を入れて茶庭を通り茶室(四畳半)、広間(八畳)が建てられています。
- ・広間は、日本の庭園文化で育まれたお茶、お花、書道、絵を楽しむようにし、広間からは眼下に池の庭を眺め楽しむことが出来ます。
- ・広間から北に登ると座禅台が在り、山裾に広がる枯山水の景色を眺め瞑想出来るようになります。

- ・植栽は、敷地周辺部に常緑、流れ池回りに落葉樹を配植し、日本の植物を可能な限り集めて、四季の移り変わりを花木、香木で感じる事の出来るようにします。
- ・南西側の築山には桜を集めて桜山とし、西側中央の築山は松を主に配植して松林とします。
- ・北側築山には、花木を集め四季の移り変わりを楽しめる様にしています。(図-4参照)



図-4 計画平面図

3. 実施設計・造成指示 (2009年10月27日～11月4日)

1) 実施設計打合わせ (10月28日)

日本庭園建設現場は、造成がある程度出来ていましたが、やはりだめでした。築山がのっぺりしてメリハリがありません。メジャー、杭、石灰等を用意していただき、造成の形を指示することにしました。(写真-10参照)



写真-10 日本庭園建設現場造成確認

市役所に戻り、市長、担当者に設計意図、設計内容を説明し打合わせをしました。

来年6月のオープンに何処まで工事をするのか、建築工事の図面を誰がするのか、不明確な点が多いのが気に成りましたが、市長にお会いして図面の了解を得て一安心しました。(写真-11参照)



写真-11 市長に計画説明

2) 建国記念日(10月29日)

祝賀祭に招かれて観覧席から見学をさせていただき、国を大切に思う心に感動しました。

ムスタファ公園局長と二人で石材、遺跡見学に出発しました。

石は、石灰岩質で建築用材の広大な石切り場でしたが、十分に庭石として使える物があり一安心です。後日、大きな石だけ選定を行います。

その後、紀元前のヤズルカヤ遺跡を巡りました。石と緑の独特の風景の中に、特に目立つ巨大な石を加工して住居や石碑を作り上げていました。言葉の全く通じない二人ですが、心は通じ身振り手振りで半日を楽しく過ごしました。いい庭が出来る条件が2つそろいました。気の合う現場責任者と庭石です。(写真-12、13参照)



写真-12 共和国の日(トルコ共和国宣言の日)



写真-13 ヤズルカヤ B.C.9世紀頃の遺跡

3) 造成工事(10月30日)

ムスタファ公園局長と市役所に行き、驚きです。若い美しい女性ネスルハンさん、アイセギルさんが座っていて、しばらくして現場へみんなでお出かけしました。なんとムスタファ局長の部下は5人が女性で、男性は1人だけでした。現場では、彼女らが男性よりも積極的に働いているのです。

位置出しをして、ビックリです。大変いい加減で、高さもでたらめでした。始めは、テープ測量で位置出しをしていたのですが、途中から測量機材を持って来て位置出しを始めました。(写真-14参照)

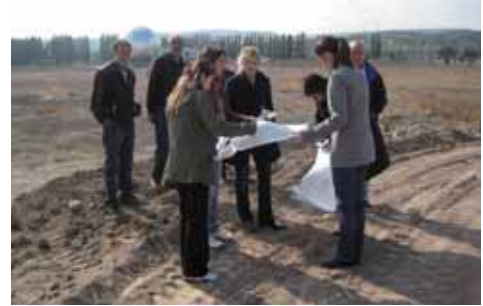


写真-14 造成工事 庭園施設位置出し

3) イメージスケッチ(10月31日)

現場で位置出しの作業ですが、適当な造成をどうすれば良いのか悩んでいます。築山の高さ、形ですが、とにかく建物、滝、流れ、池、園路、築山トップ等の位置出しをして、石灰でラインを描き高さ、形を決定することにし、滝、築山のイメージスケッチを描き担当者に説明しました。

(図-5、6参照)



図-5 イメージスケッチ



図-6 イメージスケッチ

建物、橋等の構造物の位置だして、庭の雰囲気が出て来ました。流れの位置だしを行い、徐々に形が見えて来ました。(写真-17参照)



写真-15 造成工事指示 位置出し

4) 樹木選定(11月2日、3日)

今日は朝から雨で、エスキュヒルの街が霞んでいます。夜には雪に変わるかもしれないとのこと、秋を通り越して冬の気配です。

午後から会長夫妻、市職員のコライ氏と市の苗圃へ行き、樹木調査をしました。雨で苗場がぬかるんでおり、コライ氏と二人で使えるような樹木を広い苗圃を回りリストアップを行い、樹木もなんとかかなりそうです。(写真-16、17参照)



写真-16 主要な石材(20石)選定



写真-17 市圃場で樹木選定

5) ブルサ植物園(11月4日)

イスタンブールに向かう途中でトルコ人が設計、施工したブルサ植物園内日本庭園を見学しました。残念ですが石組、建築等中国的で、日本庭園と呼べる姿では有りませんでした。(写真-18参照)



写真-18 ブルサ植物園内日本庭園

6) 帰国

トルコでの天候は、秋から冬に一変し、秋の装いを楽しむ間が感じられませんでした。はるかの車窓から眺める景色は、日本の深まり行く豊かな秋の気配を感じさせてくれます。

日本人が四季の移り変わりの豊かな自然から育んだ庭園文化、技術を世界の人々に伝えたい。エスキュヒル日本庭園が、訪れるトルコ、日本の人々の誇りに思える庭園を作りたいとますます感じました。

4. 施工監理-1(2010年3月30日~4月6日)

1) 施工打合せ(4月1日)

午前10時にエスキュヒル市に到着、交流協会会長夫妻にお会いして市役所へ、関係者と図面の打合せ、明日からの工事段取りの打合せを行いました。

現場は、荒造成が出来ていましたが、滝の石組が出来るような状態では無く、とにかく明日から石組が出来る様に滝の堀方から指示をして、防水処理についてはエスキュヒル市にお任せしました。(写真-19参照)



写真-19 滝造成工事

2) 滝石組 (4月2日)

午前中に石が一石据わりました。石の運搬は巨大なホークリフトで、石の据付は40tクレーン、掘削は、大型のユンボと小型のユンボ、なんとも大掛かりな仕事です。防水の方法、石組の仕方が違いすぎて、話し合いばかりで時間が過ぎます。そもそも石組自体をした事が無く、初めは大変でしたが、徐々に石の吊り方、据え方が理解され、進み出し、なんとか昼から4石据えました。(写真-20、21参照)



写真-20 滝造成工事



写真-21 滝石組工事施工管理 1日目

3) 滝石組 (4月3日)

今日はスタッフが減り、クレーンのオペ、ワイヤー掛けが2名、ユンボ担当者、石材運搬担当者等で、昨日より人数が減りました。しかし、やり方が徐々に分かり、据付ペースが早くなりました。ほとんどの大きな石を据付け、滝の全容が姿を表しました。

運ばれた石を見ながらどの場所に、どの様な姿で据付けたら良いのか、石と石のつながり、相性はどうか、全体のバランスを考えながらあらゆる角度から見て据付けて行きます。必死に石と向き合う時間で、この時間が最高に幸せです。(写真-22、23参照)



写真-22 滝石組工事施工管理



写真-23 滝石組工事施工管理

4) 蓬莱山 (4月4日)

昨日、滝石組をほぼ完了しました。蓬莱山から流れ出た命の水が滝を落ち、流れ下り、平和と幸せの願いを込めた大海を作る物語です。

選定した7t級の全ての石が無くなり、現場での息もピッタリと会い、気持ち良く石組が出来ました。

5) 枯山水 (4月5日)

夢で鶴亀蓬莱の庭を見ました。午前中造成を行い、午後から石の据付をしました。今日完了出来なければ明日の午前中に行う事を考えたのですが、クレーンが今日で終わりとの事、枯山水のイメージは出来ていたのですが、石がイメージと違い納得できる石組にはなりませんでした。

(写真-24参照)



写真-24 枯山水石組 4日目



写真-26 滝植栽工事

6) 樹木選定(4月6日)

午前中にエスキシヒル市苗圃で、樹木を選定しました。エスキシヒル市の要望により、今月末から一週間樹木の配植と石組を行うために現場に来る事を決めました。

(写真-25参照)



写真-25 植栽樹木配植指示

昨年の9月に現場を見てから8ヶ月で、図面作成から造成、滝の石組を行い、7月初めに何とか思い通りの庭園が完成出来そうです。

5. 施工管理-2(2010年4月24日~5月日)

1) 植栽工事(4月28日)

昨日に続き、滝周りの植栽工事を行いました。流れ、池の防水工事はなかなか進みません。今日で、滝回りの植栽工事がほぼ終り、花木の山もリングの木を配植し、枯山水の捨石を4石据付けました。明日は、枯山水部分の植栽をします。(写真-26参照)

2) 流れ石組工事(4月29日)

枯山水の植栽工事を行い、ほぼ完了しました。

流れ防水シート工事はどうなったのかよく分かりませんが、先に流れの石組をして、後で防水工事を行なう事にしています。したがって明日、流れの石組を行います。工事の仕方が違うのか、何を考えているのかよく分かりませんが、出来る限りの事をして帰りたいと思います。後2日です。

(写真-27参照)



写真-27 流れ石組工事

6. 施工管理-3(2010年6月26日~7月6日)

1) 防水工事(6月26日)

現場では職員のほぼ全員が働いており、出迎えの歓迎をしてくれ、本当にありがたい出迎えです。

早速、工事状況、仕上り状況を確認しましたが、やはり、上手く出来ていません。池は、防水シートがまだ完全に出来て無い状態で、流れも土留めが出来て無い、石も据付が出来て無い、流れの仕上げもまだで、明日からの6日間で何処まで完成度の高い状態に持って行けるかはなはだ疑問です。

さらに、入口の門、池岸の景観ポイントで有る休憩舎がエスキシヒル市で設計され工事が行われていましたが、こちらもイメージが違い残念です。しかし、最善の努力をして開園式を迎えられる様にしたいと考えています。(写真-28参照)



写真-28 池防水工事

4時頃から突然の雷雨で工事がストップし、ホテルに引き上げて来ましたが、何時も午後から雷雨で、工事が遅れている様です。明日からは、流れの石組の据直し、小滝石組、流れ護岸石組の土留、各橋の橋挟石組、池護岸石組、池周りの植栽等を行います。

2) 流水テスト (6月28日)

ムスタファ局長が現場で指示を出していました。早速、池周りの捨石と橋挟みを据付、入口のメイン樹木、高木を配植し、午前の作業を終えました。午後からグリーンハウスと呼ばれている市役所の圃場で樹木を選定、現場へ戻り、流れの砂利撒き、小滝の配石を行いました。

滝からの流水テストが始まり、滝、流れの流水状況を確認し、問題個所の処理方法について指示を出しました。滝の流水には感動し、流れの水の動きと音で、仕上げの荒さを消してくれました。

(写真-29参照)



写真-29 滝流水テスト

低木、地被の植付けが同じ種類でグルーピング化されて植えられて、不自然なので数種類の低木、地被を混ぜて植えるように指示をしました。

明日は、流れから池の落ち口に大きめの石を2石据付け、池周りの中木、低木、地被、草花を植付け、滝の落ち口に水分石、捨石を配石し、流れの配石を行い完成です。(写真-30参照)



写真-30 池回り石組工事

3) 大きな問題 (6月30日)

現場も順調に予定していた工事が進んでいます。工事スタッフも50人以上はいるとも思われます。とにかく開園式に向けて一丸となって仕事をしています。

開園式まで残り4日、今日も現場では流れの仕上げ、地被、草花の植付け、池護岸の仕上げ、休憩舎工事で多くの人が動き回っています。局長も毎日現場で指示を出しています。見学者も増えてきました。市長も視察に来られ賑やかです。

滝から水を流して池に水を溜めています。大きな問題が発生しました。滝の水が外に漏れて、途中から出てきました。

さらに、滝壺の水が漏れて、流れの水が減っているのです。滝の石組をする時に、躯体の図面を作成して必要性を説明、防水工事をしていないことの問題を説明したのですが大丈夫心配しないと言われて、造成工事をし、直接石組をしました。流れは途中からコンクリート躯体で、池は防水シートで工事が行われましたが、滝については、流水部分だけを後からコンクリートで作られていました。流水のテストをして安心していましたが、2日で問題が明らかになりました。今日、一日修復作業をしていましたが、まだまだ安心できません。

私の今までの経験でどれだけ水が怖いか、どこで漏れているか分からない事でどれだけ泣かされてきたかを話し、内側にプールを作り、グラスファイバーでカバーをするように説明しました。(写真-31参照)



写真-31 防水工事

4) 海洋風景(7月1、2日)

サブ入口前の高木植栽をし、2石を据付、当初、池の中に和歌山串本の海岸風景を巨石で表現を考えていたのですが、既に防水シートが敷かれ難しくあきらめかけていたところ、池護岸部分を砂利敷きで仕上げを行っているのを見て、岬の州浜部分に小振りの石を運んで、表現することにしました。(写真-32、33参照)



写真-32 池仕上げ工事



写真-33 池仕上げ工事

5) 休憩舎(2010年7月3日)

滝壺の水漏れ防水工事、休憩舎工事、入口門工事、園路工事、池護岸工事、園路舗装工事、開園式準備工事等を行っています。

昨日も市長が視察に来られ、休憩舎の塗装の色が目立ちすぎていることを私が非常に残念だと話していることが伝わり、塗り直しをしようと言われておられました。

6) 雪見灯籠(2010年7月4日)

19時まで現場で作業をしていました。滝壺は結局水が止まらず、応急処置をして埋め戻しをしました。流れの要所の石組を直し、休憩舎周りの捨石を据え、午後から幟、巨大な雪見灯籠が据えられました。ただただ驚かされます。休憩舎で驚かされ、今日は巨大なコンクリート製雪見灯籠でした。

初めはエスキシェヒル市に日本から運ばれた灯籠があるのかと思いきや、市長が灯籠を作らせたそうです。

そして、高さが3mの雪見灯籠でした。初めは入口の門付近に考えたのですが、現物を見て庭園景を壊しそうなので、急遽庭園から目立たない、裏口部分に据付を指示しました。(写真-34参照)

トルコ側で設計されたメインゲートの門が取り付けられましたが、ビックリです。感覚が違うようです。大きすぎて、庭園とのバランスがとれていません。(写真-35参照)



写真-34 灯籠設置工事



写真-35 入口門工事

朝から滝と滝壺の防水を仕上げ、夕方から水を流して漏れないかテストをしていましたが、滝部分は何とか止まったようですが、滝壺からは水が漏れていました。局長と10人以上の作業員が残って作業を続けています。現場は、作業スタッフが19時まで作業をし、最後まで要所捨石の配石指示をした私の思いを聞いてくれました。

7. 開園式 (2010年7月5日)

午後6時30分から開園式が始まります。午前中現場で再度植栽、修景確認等の指示をしてホテルに戻りました。外は、雷と風で嵐です。まさに雨降って地固まるですが、開園式の準備をしている現場が心配です。

開園式が行われる頃には太陽が顔を出し、青空も広がり神懸かりです。

市長から記念のプレートをいただき、テープカットをさせていただきました。多くの日本人参加者、エスキェヒル市関係者、現場関係者、市民が参加して賑やかな素晴らしい開園式になりました。(写真-36参照)



写真-36 開園式

日本庭園を通して多くの方と知り合い、開園式のこの日を迎えられ、関係者の喜ばれている笑顔、参加されたエスキェヒル市民、日本の方々に喜んでいただき、とても幸せな一日で、様々な苦労が一瞬にして喜びに変わる海外で作庭する素晴らしさについて、造園を学ぶ多くの学生にこの日の喜びを是非伝えたいものです。(写真-37～44参照)



写真-37 滝完成



写真-38 流れ完成-1



写真-39 流れ完成-2



写真-40 池完成



写真-41 八つ橋完成



写真-42 築山完成



写真-43 園路完成



写真-44 休憩舎完成

8. おわりに (7月6日)

朝8時45分にホテルに迎えが来て市役所市長室へ、そして、庭園内に置くために胸像を作るので制作工場へ行くように、昨日の式典で話されていた事でしたが、辞退しているにも構わず、事が進んでいきます。

街外れの工場では、市におかれているモニュメント等の制作が行なわれ、市長直属のスタジオがありました。

市長自らが私の胸像をスタッフと共にマスクを作り始めた時には驚きました。

日本文化紹介ワークショップ会場で、市の大学学長から記念品をいただき、市長とお茶会に出席しました。(写真-45参照)

時間が既に14時前で、現場の多くの仲間に見送られやっといstanbulに向けて出発しました。(写真-46参照)

空港に到着したのが、21時前で、イstanbulで予定していた船に乗って魚を食べる計画は見事に消えました。

しかし、ネスルハンさん、アイセギルさんと共に車でエスキェヒル市からイstanbulまで過ごした時間は、今回の素晴らしいプレゼントになりました。市長、局長、関係者に感謝です。



写真-45 お茶会



写真-46 現場の仲間